

KTK

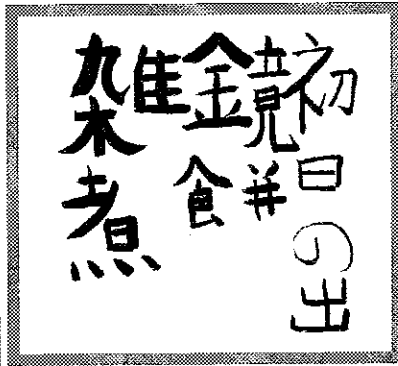
NO. 72

後援会費郵便振替口座
01070-7-32145
あらぐさ後援会

あらぐさ通信

編集 集 あらぐさ後援会
編集協力 社会福祉法人あらぐさ福社会
〒617-0813 京都府長岡京市井ノ内広海道42-3
TEL 075-953-9212 FAX 075-953-9215

「お正月」を
テーマにして
かきました



筆やわりばし
を使って
一気に描きあ
げました

一画一画 気合い
をこめました



あけましておめでとございませう

本年もどうぞよろしくお願いいたします

アート「あはは堂」では、絵画・イラスト・書道など様々な創作活動を行っています。長岡京市内にある大阪成蹊大学芸術学部の学生さんと一緒に、月に1度活動しています。

充実した生活を送ってほしい

もっと外出 おしゃれ大好き

29歳のまどかさんは、あらぐさAグループの中では一番のお姉さんです。まどかさんのお母さんに、暮らしの様子やこれからの願いをお聞きしました。

(取材 前田・真殿)

自分の気持ちを大切に

あらぐさのお買い物外出。お気に入りの洋服屋さんに出かけて、お店の人や職員に気持ちを伝えて「納得の1着」を見つけてます。20歳の成人式のときには、職員からのアドバイスで髪型のスタイルブックを購入したのですが、お母さんにも見せず自分で髪型を決めて美容院にいきました。それ以来、服や髪型は自分で決めているそうです。スリムで長身、おしゃれ好きな、いまどきの娘さんです。

言葉は出ませんが、「ウン」と「イヤ」ははっきりしています。自分の表情で気持ちを伝えることができます。あらぐさの活動でも、彼女らしい作品を作っています。バットに入った水の表面に絵具を流し、手でかき混ぜて

できる波紋で模様をつくる「マープリング」。羊毛の原毛を石鹸水に浸してぎゅっと握る「フェルト」。いずれも、彼女らしい模様や作品ができるそうです。

家族みんなで応援

生後7ヶ月までは、大きな普通の赤ちゃんでした。京大病院で病気がわかり、「発見が早く、治療が合えば普通に育つ」といわれ、母子入院。お父さんは仕事、4つ上のお兄さん、病氣のおばあさんをかかえての入院でした。お父さんのお姉さんにも応援をお願いしました。しかし残念ながら改善せず難治性のでんかんが残りしました。

退院時、主治医から「療育に力を入れるように。脳に外から刺激を与えることが大事。発作をおそれ何もさせないのではなく、普通にいろいろさせなさい。」と言われ、ポニーの学校に入所。その後、町の保育所にも併行通所しました。東京に先進的な療育があると聞けば東京へ。向日が丘養護校入学

後も長期休みの学童保育「ともだちの輪」の運営にも頑張りました。「でも楽しかったよ!」と当時を振り返られます。

お母さんは手芸の先生

もとも手芸好きだったお母さん。近所の奥さんから「まどかちゃんがいって大変とは思っけど、習いに行かない?」との誘いをうけて始めたパッチワークは、今や本格的な先生になりました。「時間があれば、布探し、小物探し、アジアの布の仕事現地をたくさん見て回りたい」と、自分のしたいことも大切にされています。

暮らしに必要な援助

まどかさんは、家から外出するのが大変です。お家は、団地の1階ですが、外に出るには何段かの階段があります。家の中では車椅子を使っていないので、まどかさんを立たせて、後ろから腰を支えて歩いて玄関へ。そして、階段を下りなくてはなりません。お父さんは退職後、家におられますが、病氣もあって、介助をまかせることができません。だんだん大変な気がしてきました。お風呂は、制度を使って週に3回入

地域で暮らす 家庭で暮らす



車椅子使用のたけさんは、41歳。言葉は出ませんが、人に訴える力はすごいものがあります。高齢者といわれる年代となった両親と3人暮らしです。

あらぐさから午後4時過ぎに帰宅すると、玄関からは入らずに、職員の手で送迎車からたけさんの部屋兼居間の布団に直行します。（朝はその逆）家中での移動は両親には負担です。

たけさんの楽しみはテレビで歌や漫才を見ること。両親の会話も漫才のようで、家族だんらんの時間が過ぎて行きます。休日は、月に2回2人のヘルパーさんと京都や大阪に行くのが楽しみです。

夜は、たけさんの部屋で親子3人が寝ます。以前は、家でお風呂に入りましたが、父が椎間板ヘルニアを患ってできなくなりました。居間で簡易浴槽を使っての入浴もしましたが、それも大変。現在は、3カ所の事業所の組み合わせによる入浴です。

月に1度は短期入所を利用。日中一時を利用して、夕方親子それぞれの時間をのんびり過ごすこともあります。

将来についてお母さんは、「乙訓地域に入所生活施設みたいなものがある、そこからあらぐさに日通えたら理想だね・・・」とっておられます。

学び育った地域で
仲間と一緒に暮らしたい
安心して暮らせる
制度の充実を

ルパーに来てもらい助かっています。外出はガイドヘルパーと、大山崎の女性グループで月に1回、大阪や京都へ一緒にでかけます。本当は、お母さんが留守の時に、出かける回数を増やしたいのですが、階段の昇降はお父さん一人では無理なため、家でお父さんに見守ってもらうことになります。まどかさんに必要なお金は年金でま

かなくなっていきます。家にいる現状では、食費や家賃はいららないので、あらぐさやヘルパーの利用料、外出の実費、服や美容院代などは年金の範囲内で大丈夫です。

“まどかさんの生活”を

近い将来、お母さんは、まどかさん

に「自分の生活」をさせたいと思っておられます。まどかさんも、仲間と暮らしたいと思っている時期だと思い、この乙訓にグループホームやケアホーム、ミニ施設を作って、昼も夜も、土曜も日曜も充実した暮らしを送ってほしいと強く願っておられます。

新成人おめでとう！

ことし、成人を迎えられる利用者さんのご家族から、お祝いのメッセージをいただきました。

二十歳のあなたへ

伊藤洋子

早いもので、もう20年。振り返れば紆余曲折ありのしんどい子育てでした。宇宙的なあなたに、とまどい、苦しみ、悩みながらもあなたを育ててこられたのは、母も周囲の人に支えられ、育てられたからだと思えます。20年たった今も、相変わらず一癖も二癖もあるあなたですが、最近ではお笑い好きになり、“キタ1、僕イケメン”など人を和ませる一芸も身に付けましたね。これからも社会の中で皆さんに愛される人間に育つよう母は願っています。

共に20年

今井うめ子

2月で20歳の誕生日、おめでとう！ あっという間？それともやっと20年でしょうか？ 楽しい事やハラハラドキドキする事もありました。こだわりが強く理解できない行動に随分驚かされ悩んだ事も・・・そして沢山の人に出会い、助け支えられてここまで来た20年でもありました。そんな中を、一歩一歩ゆっくりマイペースで成長している(?)であろう我が息子・・・。これからも、あなたを支えてくれる人達に感謝し、元気で
お茶目♡な隆元でいて下さい。

あらぐさ秋まつり

ひろがる協力の輪

10月18日、第4回を迎えた「あらぐさ秋まつり」が障害福祉センターあらぐさで開催されました。地元の皆様

をはじめ大勢の方々にお越しいただき、多くの皆様のご協力をいただいて、盛況のうちを終えることができました。

あらぐさ祭に参加して

江後経営グループ ニコニコチーム

林 俊 亮

今回、私達は初めて参加させて戴きました。

社会福祉法人さんのイベントに参加する機会は初めてというところで、チーム一同、当日の雰囲気からまず楽しんで貰うことが出来るのかと不安を持っていたのですが、角さんの「皆さん自身も楽しんでくださいね」との言葉を貰い、皆の不安も和らぎ、自分達が楽しめるような形で参加させて戴きました。

「輪投げコーナー」を設置させて貰ったのですが、出来るだけ手づくりのようにい

うコンセプトのもと、段ボールで台を、サランラップの芯でポールを、新聞紙と布で輪を作りそれにペイントした簡単なもので、大変なところもありましたが、皆で一つの作品を作ったような楽しさと嬉しさがありません。

当日は、来てくださった皆さんの笑顔や真剣な顔を見て、皆さん以上に私達も楽しめましたし、とても有意義な一日を過ごすことが出来ました。

こうした機会を戴きました、あらぐさ福祉会の皆様に大変感謝しております。

あらぐさコーナーが目見え

ろうきん長岡支店

ろうきん（近畿労働金庫）長岡支店のご協力で、店舗口ビーの一角に作品の紹介・展示コーナーを設置していただきました。さっそく、見られた市民の方からストラップの注文があるなど好評です。

場所 II JR長岡京駅前 千春会病院西100m

..... 車椅子の貸し出しも.....
ろうきん長岡支店では、車椅子を常備して貸し出しをしています。利用ご希望の方は同店にお問い合わせください。

でんわ 075-953-1171

きょうされん第32次国会請願署名

ご協力をお願い

- ことしも、次の項目で国会請願署名に取り組んでいます。
- ① 応益負担制度や報酬の日額払い方式を根幹とする障害者自立支援法は一旦廃止してください。
 - ② 現行事業体系を改変し、国や自治体の責任で、小規模作業所も含むすべての事業が安定して運営できるようにしてください。
 - ③ 障害のある人に必要な支援を安定して継続できるように、これを支える職員の労働条件を改善してください。
 - ④ 社会保障制度の飛躍的な拡充に向けて、関連する予算を先進国並みに引きあげてください。
- 署名は、あらぐさ福祉会へお送りください。乙訓地域は、お電話をいただければ受け取りにうかがいます。



もうやめようよ！障害者自立支援法

コブシをあげて

ガンバロー

大久保 久江

日比谷野外音楽堂での集會に秀平と参加させていただきました。

早めに着いたので座れましたが、遅れた人は席がない程の大勢の人で初めて参加する私にはこの集會の大きさを改めて知ることができました。

集會が始まる時刻には約4500人が集まり、会場に入りきれず外で立って聞いている人たちも沢山おられるとのことでした。最終的には約6500人の全国の大きな集會でした。

実態報告で、いろんな障害を持った人たちがいることを知り、皆さん切実に訴えておられました。

ある障害の方が「みんなで頑張りよう！」とコブシを上げて「頑張りよう！」と連呼する場面では、おとなしくしていた秀平も同じように手を上げて「頑張りよう！」と言うことが出来たりして、参加させてい

ただいて良かったと思いました。

障害者の暮らしに大きな影響をもたらす自立支援法を改めて考え直し制度自体に様々な問題があることが解りました。

憲法に則した

新しい法律を

栗野 賢

日比谷野外音楽堂で行われた「障害者自立支援法10・31全国大フォーラム」に参加してきました。

フォーラムでは、「成長期の子どもは補装具や座位保持椅子などを頻繁に作りかえなくてはならず、家庭用、施設用と二つ作ると片方は全額実費。負担が大きすぎる。」「障害者の労働者が会社で働くのに利用料など払っていない。」「障害者は作業所で働いている仕事をしているのに一割の利用料を取られるのはどうして

なのか。」「などの実態報告があり、障害が重ければ重いほど負担が重くなるという自立支援法が、自立とは名ばかりの、障害者を苦しめる法律だということが改めてよくわかりました。

今年春に見直されることになっていますが、フォーラムの参加者の「見直しではなく、廃止に」という声が、全国の障害者の声であり、障害者自立支援法を廃止し、誰もが普通に暮らせるために、日本国憲法に則した新たな法律をつくるという運動に積極的に参加しなければならぬと感じました。



全国から6500名が参加

きょうされん 全国大会 inひろしま

参加報告

認められ、あたり前に暮らし
ていく」地域づくりを目ざし
てとりくんでいくと力強く話
されていました。

基調の報告では、ガソリ
ン・原材料値上げに伴い大き
な影響が出ていること、「自
立支援法の訴訟」、福祉労働
者の低い賃金のこと、立ちお
くれた国の社会保障への支出
などについて話がありました。

つぎに「はだしのゲン」の
漫画家・中澤啓治さんによる
記念講演。ご自身の被爆体験
をとおして原爆投下による悲
惨な状況や戦争を起した原
因への怒りなどを、漫画を通
じて語っておられます。

その後、利用者ミニフォー
ラムでは各コーナーを子供と
ともに楽しむことができ、夕
方の大交流会に参加しました。
二日目は観光ツアー3つの
うちの1つ安芸の宮島でした。

全国大会に参加して、大勢
の仲間の中で大会を体感でき
たことは望美にとっても(も
ちろん母も)有意義なことだ
うれしく思っています。あり
がとうございました。

(垣内良美)

〇広島につくと、新幹線の構
内からボランティアが会場案
内で迷うことなく会場に着き
ました。オープニングセレモ
ニー、地元の障害者、指導員、
ボランティアががんばって準
備されたのがよく伝わりました。
開会全体会、知事の挨拶、
市長の挨拶。今まではわりと
そんなのは形式的で嫌いだっ
たのですが、よく考えると、
こんな風に全国大会がまわる
のは、各知事や市長に障害者
のことを知ってもらおうチャン
スなのだとわかりました。

記念講演は「はだしのゲン」
の原作者中澤啓治さんでした。
「はだしのゲン」は読んで心
は動かされたのですが、嫌い
でした。私は、軽く、楽しく、
ちよっとおしやれで知性的な
ものが趣味的には好きです。
だから「はだしのゲン」は嫌
いでした。記念講演は聞き応
えがありました。戦争反対、
原爆反対といまの世の中で言
うことは、当たり前で簡単な
ことのように見えますが、た
とえば日本の戦争責任を追究
するとなると、いまでもみん
な腰が引けてしまいます。原

爆の悲惨さ、現実を伝えよう
と思うと、作者も出版社もア
メリカCIAを敵にまわす覚
悟がある。また一般日本庶民
の行動、戦前においては戦争
に疑問を持っている人に対す
る非国民と思う感情、戦後に
おいては被爆者を恐ろしい、
うつると差別する感情。情け
ないけれど、事実です。聞い
てよかったと思います。会
場で何度か歌われた「ヒロシ
マのある国に生まれて」がジ
ンとききました。

とは言うものの、重いこと
は忘れて、分科会では利用者
(子供)と利用者ミニフォー
ラムに参加しゲームをしたり、
夕食は大交流会に参加しテ
ィブルが一緒になった夢織の郷
の人達と楽しく歓談し、翌日
は雨の中、ずつと行きたかつ
た宮島に交流観光ツアーで行
きました。来年も応援よろし
くお願いいたします。ありが
とうございました。

(前田幸子)

10・31全国フォーラムと、
きょうされん全国大会参加費の
一部を後援会より補助しました。

シリーズ⑤ あらぐさと私



安藤 歯科医師の健
2001年から、

歯科衛生士

伊藤 妃美 さん

診とともに口腔ケアに10名の歯科衛生士があらぐさに入りました。わたしは、もう一人の衛生士と「調子」のさわらびの家を担当しました。当初は、歯磨き習慣のない方もおり、口内の汚れ・口臭・歯茎からの出血など、口腔内の状況はおせいじにも良いとはいえない状態でした。

わたしたちが、この状況の改善のためにまず取り組んだのは、一人ひとりの口内の状況を把握することでした。そして、それをもとに一人ひとりにあった歯磨き指導をおこないました。

一方、歯磨きに興味を持ってもらうと虫歯の絵を見せて話をしたり、通所者に先生になってもらったり、保護者の方にお手紙を出して状況を伝

え交流会を開いたりしました。

そんな時、指導員の方から「衛生士さんが来られる日は一所懸命歯磨きします」「来てくれるのを待っているんです」と教えていただきました。たいへんうれしい報告でした。

その後、染め出し液を使うようになると磨き残しがはつきりとわかるようになり、以前にもまして頑張って歯磨きをしてくれるようになりました。これらの工夫は、「どうしたら口の中が健康でいられるか」と指導員の方と何度も話し合いをしながら手探りで見つけてきました。今では、以前の状態が見違えるように改善されました。これからは、さらに良い状態になるように指導員や保護者のみなさんもしっかり連携を取りながら通所者の方の歯の健康を維持・向上していこうと思います。

ホールに宇宙ワールドが？！

6回目を迎えたあらぐさの作品展

みなさまのご来場をおまちしております。

平成21年2月11日(祝) 12時~18時

12日(木) 9時~18時

13日(金) 9時~15時

長岡京市立産業文化会館1階ホール

フェルト・ビーズ・さをり・和紙・絵画・染色・編み物
クッキー・食品加工など

創 ころ
VI

えがおの手しごと展

平成4年6月5日 第3種郵便物承認(毎月1回25日発行)
平成21年1月28日発行 KTK増刊通巻第3143号 〒600-8143

発行所 京都障害者団体定期刊行物協会
京都府上京区堀川通丸太町南

頒価50円(購読料は会費に含まれています)
京都社会福祉会館4階京警協内 発行人 高谷

修